



名古屋の 伝統産業と 自然の恵み



名古屋城とともに生まれた名古屋のまち

豊かな自然と良質な材料に恵まれ

尾張藩のもと名古屋のくらしとともに

培われてきた伝統の品々

改めて今の暮らしを

見つめなおしてみませんか

目次

1	生物多様性と名古屋の伝統産業	1
2	尾張七宝	3
	(平成7年伝統的工芸品指定)	
3	有松・鳴海絞	5
	(昭和50年伝統的工芸品指定)	
4	名古屋節句飾	7
	(令和3年伝統的工芸品指定)	
5	木桶	9
6	名古屋桐箆笥	11
	(昭和56年伝統的工芸品指定)	
7	名古屋扇子	13
8	名古屋提灯	15
9	尾張仏具	17
	(平成29年伝統的工芸品指定)	
10	名古屋仏壇	19
	(昭和51年伝統的工芸品指定)	
11	名古屋友禅(手描友禅)	21
	(名古屋友禅として昭和58年伝統的工芸品指定)	
12	名古屋友禅(型友禅)	23
	(名古屋友禅として昭和58年伝統的工芸品指定)	
13	名古屋黒紋付染	25
	(昭和58年伝統的工芸品指定)	
14	和蠟燭	27



～ 生物多様性とは ～

～ 私たちの暮らしと自然の恵み ～

山 森 飲み水 くすり 畑 洋服 公園 海

木材 食べ物 楽しみ

田んぼ 干潟

(例) ○資源の過剰利用(乱獲など)
○森林など生きもののすみかの減少(都市化の進行など)
○外来生物の増加
○気候変動

～ 伝統産業とは ～

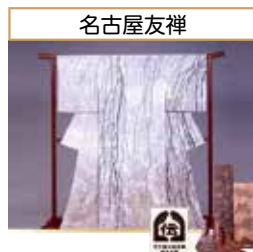


- ① 主として日常生活の用に供されるもの
- ② 製造過程の主要部分が手工業的
- ③ 伝統的(江戸時代以前の歴史がある)な技術又は技法により製造されるもの
- ④ 主たる原材料が伝統的に使用されてきたもの

名古屋の伝統産業

名古屋の伝統産業

名古屋の伝統産業関係業界が密接に連携し、伝統技術・技法の継承、販路の開拓など事業の促進をはかり、その振興と市民生活の向上、地域経済の発展に寄与することを目的として「名古屋伝統産業協会」を設立し、現在、加盟団体は12業種11団体となっています。



伝統産業は環境にやさしい産業

自然資源が原料となっている

- 多くの伝統工芸品は、竹や木、花などの生きものからもたらされる恵みを活かして作られています。

長く使える

- 伝統工芸品の多くは修理を繰り返しながら長く使うことができるようになっています。
- また修理できるようにすることで、自然資源を使いすぎないようにしています。

つくる際に多くのエネルギー資源を使わない

- 伝統工芸品の製造はほとんどが手作業のため、工業製品と比べて多くのエネルギー資源を使いません。

私たちの生活
スタイルを見直して
みませんか？



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



NAGOYA
DENTO
KOGEI

お む り し っ ぽ う 尾張七宝



尾張七宝とは？

仏教經典にある七宝と呼ばれる美しい宝を散りばめたような美しい輝きから七宝焼という名が付けられました。江戸時代（1800年代）尾張国の者が、オランダ船により輸入された七宝の皿を手掛かりにその製法を発見し、改良を加えたのが始まりといわれています。



尾張七宝の特徴

図柄の輪郭となる部分に銀線ぎんせんを施す高度な技術によって作られる有線七宝です。その線に囲まれた内側の部分にガラス質の釉薬ゆうやくをさし、色を施します。

銀線部分が輪郭になる



七宝の良さ

100年経っても変わらない輝き

七宝は一つのものを世代を超えて長く使い続けることができます。その変わらない輝きから旧名古屋城本丸御殿上洛殿じょうらくでん ふすまの襖の引手にも使用されていました。



◀ 復元後の名古屋城本丸御殿の襖の引出金具（※水色の部分が七宝の技術による）



伝統工芸と自然の恵み

「燃えてなくなる」植物を糊に

七宝の焼成前に行われる、糊付けの工程では「白きゅう」などを糊として用いています。

下絵が実際の絵柄の邪魔をしないように、焼成の工程で燃えると無くなる素材を使う必要があるため植物などを用います。

白きゅうは、紫蘭しらんの根を乾燥させて細かくすりつぶしたもの。

紫蘭しらん



尾張七宝の作業工程

全体の流れ

1 素地作り → 2 植線 → 3 釉薬差し・焼成 → 4 研磨 → 5 覆輪付け



1 素地作り

銅板を機械で絞り、成形します。

2 植線(銀線付け)

銀線を白きゆう(紫蘭の球根からつくられた糊)で仮接着し、焼成して焼きつけます。



4 研磨

表面を滑らかにして光沢を出し、植線を浮き出させるため研磨が行われます。10種類以上の砥石や木炭などで磨き上げます。



3 釉薬差し・焼成

銀線と銀線の間に釉薬を差しして彩色し、約800℃の窯(炉)で焼き上げます。



5 覆輪付け・仕上げ

焼き物の上下を飾り覆輪と呼ばれる金具で覆い、仕上げます。



色付きの釉薬

鉛、硝石、珪石を入れてガラス釉薬(無色)を作り、金属酸化物を入れると色付きの釉薬ができます。



職人の目

～職人からみなさんへ～



七宝の技術を腕時計の文字盤などに施し製作するなど、
新しいことへ挑戦しています。
ぜひ、普段の生活やインテリアに取り入れてみてください。

おちょこ ▶



時計の文字盤 ▶



◀ 飾り皿

NAGOYA
DENTO
KOGEI

有松・鳴海絞



有松・鳴海絞とは？

名古屋の絞り染めは、今から約400年前の名古屋城築城の際に、九州豊後の人々によって伝えられたといわれています。その後、尾張藩の手厚い保護のもとで急速に発展し、東海道を行きかう旅人に名産「有松・鳴海絞」として珍重され、その名が全国に広まりました。



絞とは？



布を糸でくくり、染め上げると、糸で括られた部分には染料がつかず、糸抜きをすると様々な模様が浮かび上がります。

絞の技法は100種にも及び、多彩な文様が表現されています。

色々な絞りの技法（一部をご紹介）

- ① 全目縫い絞り（模様が全目のよう）
- ② 手蜘蛛絞り（模様が蜘蛛の巣のよう）
- ③ 横三浦絞り（模様が鳥や貝の剥き身のよう）
- ④ 鹿の子絞り（模様が鹿の背の斑点のよう）

① 全目縫い絞り



② 手蜘蛛絞り



③ 横三浦絞り



④ 鹿の子絞り



伝統工芸と自然の恵み

藍の葉で美しく染める

染の原料として藍の葉を使います。
藍は、抗炎症作用、抗菌作用などもあり、江戸時代から藍で染めた肌着は冷え性や肌荒れに効果があるといわれてきました。

<引用> AI/TOKUSHIMA. “藍とは?”. <https://ai-tokushima.jp/aitoha/>, (参照2022-2-10)



あいがめ
藍甕



藍

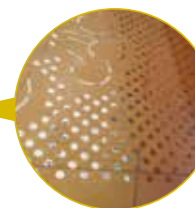
有松・鳴海絞の作業工程

1 型彫り・絵刷り

柿渋の型紙に、図案に沿って金具で小穴をあけ、型紙に従って青花液をその穴に刷り込んで、どこで糸をくくるか、絞るかの目印を生地に付けます。



型彫り



柿渋から
つくられた
型紙

2 括り

手作業で目印に従い糸でくくります。幾種もの括りを組み合わせる場合は、多くの職人の手を経てくるので、時間がかかります。



括り

一人数技法しか
習得できない
難しい作業。



3 染色

藍などの染料により各種の染色が行われます。糸によって締められた部分(くくり)には染料が染み込まないため、模様ができます。

※現在では発色等のため化学染料を使うこともあります。



染色

藍染めの絞りには、絞りの
時にできる濃淡に、独自の
風合いがあります。

◀これは藍甕を使った藍染

4 糸抜き・仕上げ

染色後、十分乾燥してからくった糸を抜きます。糸抜きした布は縮んでいるため蒸気をあてて縮んだ布を広げて仕上げます。



糸抜き

固く縛った
糸を解くのは
大変です。



仕上げ

職人の目

～職人からみなさんへ～

絞工業組合では有松・鳴海絞の技術の継承、発展、人材育成をしています。



マスクやハンカチなど
さまざまな美しい柄の
小物から
普段の生活に
取り入れてみては
いかがですか？



なごやせっくかざり 名古屋節句飾



名古屋節句飾とは？

尾張徳川家の城下町として、名古屋は江戸前期より各種の工芸技術が発達していました。雛人形、五月人形等により子どもの誕生を祝い、健やかな成長を願う節句行事が一般家庭に普及したこととともない、中部地域の地の利を活かし東西の嗜好にかなう多様な製品を産み出し、全国に販路を拡大しました。この地域は多岐にわたる技術者を有していて、雛人形をはじめとする節句人形、ぼんぼりやこいのぼりなど、全国各地のニーズに合った製品を製作しています。

節句とは？

日本には豊かな四季の中で育まれた「節句」という文化があります。日本人は自然を大切にして、季節の移り変わりを意識した生活を送ってきました。昔はたくさんの節句の行事がありましたが、このうち現代にも受け継がれている「五節句」についてご紹介します。

五節句（必ず季節の植物に彩られるのが特徴）

1月7日

じん しつ
人日

新しい年の初め、春の訪れを予感させる若菜を粥に仕立てて食べ、年中の無病息災を祈ります。

◎正月の飾り物：羽子板や破魔弓など

◆季節の植物：春の七草、松



3月3日

じょう し
上巳

ひとがたに厄をうつして水に流す風習と、宮中貴族の姿を模した人形遊び（ひいな遊び）があわさって、現在のひな祭りがかたち作られました。

◎上巳の飾り物：ひな人形など

◆季節の植物：桃の花、桜橘など



5月5日

たん ご
端午

植物の菖蒲や蓬を活用して季節の変わり目を健康に過ごすための節句が、武家の時代を経て、男子の成長を祝う節句となりました。

◎端午の飾り物：鯉のぼり、五月人形など

◆季節の植物：菖蒲、蓬



7月7日

たな ばた
七夕

夏の夜空の下、枝に短冊を結びつけた竹や笹を立て、二つの星の出逢いを祈り、また織物の名手「織女」に技芸の上達を願います。

◎七夕の飾り物：短冊、切子灯笼など

◆季節の植物：笹竹、梶



9月9日

ちよう いう
重陽

清らかに薫る菊の花に永遠の命を見た昔の人々以来、9月9日の節句には、さまざまな形で菊を用いて不老長寿が願われます。

◎重陽の飾り物：茱萸袋、着せ綿など

◆季節の植物：菊



節句人形の頭の作業工程

節句飾りの中でも今回は、人形についてご紹介します。人形は、頭や顔をつくる頭師、人形の姿に仕上げる着付師、他に胴や手足をつくる職人や、ぼんぼり、道具をつくる職人等によってつくられています。ここでは雛人形の頭づくり制作工程を紹介します。

1 生地作り・入眼

桐のおが粉と正麩糊で練ったもので人形の頭を型取ります。その後義眼を埋め込み胡粉で固定します。



2 地塗り・中塗り

胡粉と膠(動物の皮や骨などを煮た液を乾かし、固めたもの。)を練り合わせ、刷毛で塗ります。



3 切り出し・彩色

中塗りで埋もれた目鼻や口を切り出し、その後面相筆を使って眉や生え際を描きます。



4 毛ふき・結髪・仕上げ

仕上げの胡粉をさらに塗り重ね、絹や人毛など用いて結髪、飾付け、つけ毛、お化粧をして仕上げます。



伝統工芸と自然の恵み

桐のおが粉や胡粉でできた人形の頭

伝統的な技法で作られた人形の頭は桐のおが粉や胡粉を使います(桐塑頭)。胡粉を塗り重ねると、時間が経ったとき深みが増し艶が出ます。

桐



胡粉 貝殻から作られる



職人の目

～職人からみなさんへ～

日本人は自然を大切にして、季節の移り変わりを意識した生活を送ってきました。日本の豊かな四季の中で育まれた本来の節句を知ること、日本人が受け継いできた伝統的な文化の大切さを感じ、次の世代にもつないでいただきたいです。



一つひとつ丁寧に職人の手で作られる人形の良さをあらためて認識し、ご家庭で長く使ってほしいです。



名古屋の木桶とは？

江戸時代には、尾張藩所領の木曾^{さくら}榼を用いて桶の製造が盛んになりました。旧桶屋町（現在の名古屋市中区）には、藩御用達の桶職人が多く住んでいたといわれています。



榼^{さくら}は入手困難？

榼は桶や船材に用途に限られるため、植林されることが少なく、入手困難となっています。

色々な木桶

桶には、多くの種類があり、^{ひつ}櫃、寿司桶、花桶など、用途に応じたものが作られています。

すし桶



湯桶



材の無駄を減らす伝統技法

丸い側面から木の内側を切り抜いているかのようですが、実は切った板を組み合わせる丸い側面を作っています。**無駄なく木材を使える伝統の技です。**

組み合わせる木材をすべて同じ角度で合わせることで、丸い側面になります。



伝統工芸と自然の恵み

木の性質を利用した桶

榼は、「優れた吸湿性」と「食材の風味を損なわない」という特徴があります。

お櫃^{ひつ}のはなし

電気炊飯器が普及する前はお釜で炊いたご飯をお櫃に移していました。お櫃にあけたご飯は適度に蒸され、つやが出ておいしいという特徴がありましたが、電気炊飯器の便利さにお櫃の需要は減ってしまいました。



榼

写真提供
林野庁中部森林管理局木曾森林管理署



木桶の作業工程

1 木取り・乾燥

なたで必要な大きさに割り、乾燥させます。



2 鉋掛け

側板の外側、
内側を削ります。
つくる桶に合わせて
道具を変えています。

桶作りには用途に合
わせた様々な長さ・
形の鉋があります。



3 糊付け・仮箍

合わせ面にもち米の粉で作る糊を用います。
仮のたがをはめ、桶側を組みます。



4 内外鉋・箍入れ

桶の内側、外側を削り仕上げます。
正式のたがを入れます。

5 床板をはめ込む・仕上げ

あらかじめ底板の位置を決め、内側に溝を
作っておき、底板をはめ込みます。
お湯をかけると溝の部分の材が膨張し、隙
間がなくなり水が漏れなくなります。最後
に小口鉋をかけて仕上げます。



職人の目

～職人からみなさんへ～

ワインクーラーや米櫃など、現代のライフスタイル
に合う製品も開発されています。



中京大学の学生との
共同開発



桶の手入れアドバイス!!

- よく水洗いをしてください
(薄黒くなることがあります)
- つけ置きは、しないでください
- 日陰干しでよく乾燥させて
ください

NAGOYA
DENTO
KOGEI

名古屋桐箆笥



名古屋桐箆笥とは？

名古屋の桐箆笥は、約400年前の名古屋城築城のため、全国各地から集まった^{さしもの}指物職人が定着し、箆笥製造にたずさわようになったのが始まりといわれています。名古屋は、木曽材など木材の集散地であったこともあり、発展しました。

金具は金や銀の
メッキが施され
ています。

表面材には希少で
細やかな柾目の木材
が使われています。



他産地のものと
比べて幅が広い
(約3.8尺)

引戸には、金箔画や
蒔絵が施されるなど
豪華絢爛な作りであ
ることが特徴です。



長く使うための工夫

伝統的技法で作られた桐箆笥は、何十年使っても、水やお湯で汚れを落とし、鉋で表面を削るなどの「洗い(修理・再生)」を施すことで新品同様に、親子三代にわたって長く使うことができます。



洗い(修理・再生)前



洗い(修理・再生)後



伝統工芸と自然の恵み

桐はたんすに最適

桐は軽くて、防虫性や防湿性が高く、総桐たんすは、常にたんす全体が呼吸をし、湿度に敏感に反応し膨張・収縮をするので、気密性が上がり、防火性も高くなります。従って、多湿な気候風土をもつ日本では大切な衣類を始め、貴重品の長期保管に最適な収納家具として重用され続けています。



桐



検査に合格した伝統的工芸品の「名古屋桐簞笥」には、本物である証としての伝統証紙が製品に貼付されています。

名古屋桐簞笥の作業工程

1 造材～狂い直し

桐材を自然乾燥してアクを抜き、板状にします。
そして火にあぶって狂いを直します。



狂い直し



はぎ加工

2 はぎ加工

桐の木は太い原木が少ないため、数枚を合わせ、幅の広い一枚板に加工します。



本体加工

木釘も自分たちで製作しています。

3 本体加工

はぎ合わせた板を加工し、本体を組み立てていきます。

4 引き出し加工

引き出し枠組みは、「蟻組み」という、くさび型のほぞ組みで強力に接合します。

あり蟻組みという伝統技法で製作されていますので、たansに狂いが少なく、何十年にもわたって使い続けることができます。



引き出し加工

5 仕上げ～金具付け・検査

木地全体を調整したあと、木目が美しく見えるように「うづくり」加工を施し、矢車附子の実を煎じて作った「矢車附子液」を塗り、色づけをし、最後に蠟で磨きます。そして、引戸や金具をつけて完成します。

おおばやしやぶし



職人の目

～職人からみなさんへ～

本物の証である国指定の伝統的工芸品である総桐たんすを誇りをもって手作りしています。
最近では桐のもつ優れた性質などの良が見直されています。最近のライフスタイルに合ったチェストタイプの製品などを作っているので、ぜひ生活に取り入れてください！



カビや湿気から、大切な着物や洋服、腕時計やカメラ等の貴重品の保管にも最適です。



名古屋扇子とは？

名古屋の扇子は、18世紀の中頃に京都から現在の西区幅下あたりに移り住んだ父子によって始められたのがその起こりとされています。京都が婦人物及び舞扇、飾扇ほか高級品を対象としているのに対し、名古屋扇は祝儀扇や男物の量産品を主体として発展してきました。

色々な扇子

飾扇

文字通り飾る扇子。季節に合わせた絵柄や縁起の良い柄などがあり、色彩もきらびやかなものが多い。



祝儀扇

結婚式などお祝いの時に使用。誕生のときや七五三の宮参り扇、婚礼用の白扇、金銀などがあります。



婦人用扇子

夏に使用する扇子。婦人用は長さ6.5寸(約19.5cm)



一寸小さい

紳士用扇子

夏に使用する扇子。紳士用は長さ7.5寸(約22.5cm)



贈答用、イベント用、記念扇などもあります

名古屋城本丸御殿扇子 虎



伝統工芸と自然の恵み

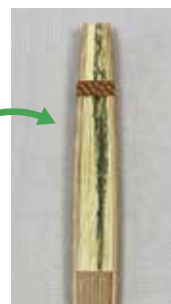
竹や和紙の性質を活かした扇子

扇子は和紙や竹からできています。

< 竹 > 竹は加工がしやすいため扇子の骨に適しています。

< 和紙 > 和紙の原料は、こうぞ、みつまたなどの植物。強度や耐久性も高いので扇子に適しています。

竹の性質を利用して、温めて親骨を内側にたわませます。



名古屋扇子の作業工程

工程は大きく ①扇骨製造 ②地紙加工 ③仕上げ に分かれています。
今回は主に、扇面と扇骨を合体させる、仕上げの工程を紹介していきます。

1 吹き

畳んである地紙を広げ、折り目を調整し、扇子の中骨を入れるために、地紙の隙間に息を吹き込んで、穴を開いて扇骨が通りやすいようにします。

吹き



2 中付け

竹でできた中骨に糊をつけ、地紙の中に挿し込みます。

中付け



3 万力掛け

中骨部分を万力で締め付けます。

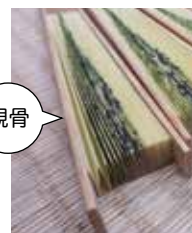
4 親骨付け

親骨を内側にたわめ、地紙の両端を親骨に糊付けします。このたわめで扇子はぱちりと閉じることになります。

親骨付け



親骨



5 仕上げ

畳んだ扇子の先を切りそろえて仕上げます。



電熱器で竹を温めて、熱いうちに固定し、冷ますと形がつくようにします。

職人の目

～職人からみなさんへ～

扇は涼むためだけでなく、能・舞踊などの芸事
の場で使われたり、飾りとして置くなど、多様な
使い方をされてきました。



最近では除菌・殺菌効果のある漆喰^{しっくい}を施した扇子も制作しているので、普段の生活に取り入れて
いただきたいです!



名古屋提灯とは？

提灯の歴史は古く、遠く室町時代にさかのぼるといわれ、江戸時代には盆供養に提灯を使う風習が生まれ、盛んにつくられるようになりました。名古屋提灯は、明治初期には貴重な輸出品としてもてはやされ、全国一の生産を誇った時期もあったといわれています。現在は、盆提灯、観光土産用提灯などが多く生産されています。

色々な提灯

盆提灯

盆に飾る提灯の総称。どれも火袋^{ひぶくろ}の骨が細く花鳥や秋草、風景などを描いた薄い紙が張られています。



大内行灯^{あんどん}



御所型



御殿丸型

名古屋発案の提灯



変形型

奉納用 提灯



インテリア用 提灯



伝統工芸と自然の恵み

和紙は光を通し、長持ち！

提灯で使われる和紙は光を通します。また、保存性に優れており、1000年以上経過した和紙の古文書も多く残っています。原料には、こうぞ、がんぴなどの樹皮が用いられます。

<こうぞ> 和紙の大半はこうぞを使用しています。繊維が長く、絡みやすいのでもんでも破れない強靭さを持ち、幅広い製品に用いられます。

<がんぴ> 繊維が短く、紙の表面はなめらかで美しい仕上がりになるため、写経用紙などに用いられます。

<参考> 四季の美、和紙の種類と魅力 | 日本の和紙産地別の特徴比較と洋紙との違い” .<https://shikinobi.com/washi/>, (参照2022-2-10)



こうぞ

名古屋提灯の作業工程

1 型組み・ヒゴ巻き

提灯の和紙を張るための木型を組み、ヒゴ(提灯の骨)を巻きます。

大きな和紙提灯等には軽い竹ヒゴが主に使用され、繊細な意匠を施すお盆提灯や小型の装飾提灯には、より美しく仕上がる細いワイヤー製ヒゴが主に使用されています



2 紙張り

巻いたヒゴに刷毛で糊を打ち、提灯用の紙を張り、刷毛で丁寧に紙を押さえ込みます。



3 型抜き

よく乾燥させてから提灯を木型から外します。

4 絵付け

和紙に絵や文字を描いていきます。絵付け職人の卓越した技術が必要になります。(描いたものを張る方法もあります。)



5 仕上げ

ヒゴに沿って畳み、検品をして上下の外輪を取り付けて仕上げます。



職人の目

～職人からみなさんへ～

名古屋提灯は、様々な用途の製品を生産しており、現代のライフスタイルに合わせたインテリア提灯も注目を集めています。

暖かい光を生活の中に取り入れていただきたいです!



クリスマスツリーをイメージした提灯

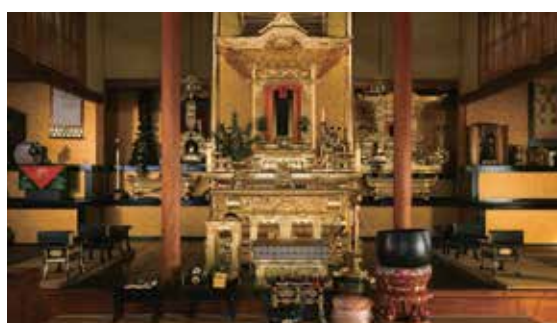


尾張仏具とは？

名古屋の仏具は木製漆塗り製品が中心で、江戸期より名古屋城下において下級武士の内職として興りました。明治期以降は問屋を中核とし、多種多様な仏具に対し分業制により良質な商品を大量に生産し、完成品を日本全国に流通させています。また仏具以外にも神具、祭礼具などの製造も行っています。

いろいろな仏具

尾張仏具は、製造におけるそれぞれの作業が独立した職人たちによって行われています。仏具は仏像、丸金台、前机、木魚、位牌など様々なものがありますが、特に木魚は現在では尾張地区でしか生産されていません。丸金台も、尾張には専門の職人がおり、全国各地でこの地区で製造されたものが使用されています。



木魚▶



◀丸金台(おりんを乗せる丸形の台)

長く使うための工夫

ほとんどの仏具は消耗品ではなく、修復することで長く引き継がれていくものです。

修復は新品を作るより高い技術力が求められます。分業化により磨き抜かれた技術力が活かされています。



修復前



修復後



伝統工芸と自然の恵み

漆が尾張仏具を支える

漆は、木製品などを長持ちさせる優れた生活資材として親しまれてきました。

◎漆の特徴

- 素材の腐朽を防ぎ、酸やアルカリにも強い。
- 塗りあがった肌が美しい。

漆は漆の木に傷をつけてしみ出た樹液を集めて採取します。



漆

<引用> 林野庁.“漆のはなし”.<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/urusi/>, (参照2022-2-10)
林野庁.“漆の造り方”.<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/urusi/saisyu.html>, (参照2022-2-10)

尾張仏具の作業工程

製作工程ごとの職人による分業により作られています。

◆木地製作 ◆彫刻 ◆漆塗り ◆彩色 ◆^{かざり}金具製作 ◆金箔置き ◆蒔絵 ◆沈金 の工程があります。

木地製作

^{ひのき}松・^{けやき}桧・^{くも}楠などの乾燥材を用いて仏具を形づくりします。



^{かざり}金具製作

銅、真鍮などの金属板に^{たがね}鑿を使って、柄を刻みます。



彫刻

動物や植物を彫刻し、荘厳で華やかな彫り物を作ります。



金箔置き

金箔を貼る箇所に漆を擦りこみ拭き取り、金箔を置き押さえます。



漆塗り

^{はけ}刷毛・ヘラなど専用の道具を使って漆を塗ります。



^{まき}蒔絵

漆で文様を描き、その上に金箔や銀箔を蒔いて図柄を表現します。



沈金

彫刀で漆面に紋様を線状に浅く彫り、彫った部分に生漆をすり込み、そこへ金・銀の箔や粉、あるいは、色の粉を沈めて研磨をし、金線の紋様を描きます。



彩色

^{きん}金泥や^{でい}絵具を使い、紋様を描いたり着色を施します。



職人の目

～職人からみなさんへ～



オーダーメイドの仏具や、仏具の伝統技術で仏具以外の製品の製作も可能です。

ぜひ皆さんのライフスタイルに取り入れてみてください！





名古屋仏壇とは？

名古屋における仏壇製造の歴史は、元禄年間、仏壇専門店の創業の頃に始まったといわれています。尾張藩から営業権を与えられて株仲間が組織され、藩所領の木曾檜を用いて製造されました。



扉を閉じた様子

名古屋仏壇の特徴

- 台が高く「まくり」を備えていること
(濃尾平野は水害が多かったため)
- 宮殿御坊造(内部の宮殿作りの部分)
など豪華な構造が特徴となっている
- 「八職」といわれる8部門の専門職人による分業生産

まくり(台の前にある持ち上げ式扉)

長く使うための工夫

仏壇は、あらかじめ修復することを想定してつくられているため、古くなったお仏壇を補修・修復することができます。(お洗濯といいます。)

また、「ほぞ組み」で作られているため、仏壇の仕組直しが容易にできます。



お洗濯前



お洗濯後

ほぞ組み
釘を使わず、木と木を組み
合わせて留める方法です。



伝統工芸と自然の恵み

檜や漆を用いて長く使える仏壇に

- 本体は檜を使用します。檜はすりと伸びる性質があり、木材の肌目は美しく、優れた耐久性や抗菌性があります。
- 漆(漆の木の樹液)は、酸やアルカリにも強いので木製品などを長持ちさせます。

<参考> 中部森林管理局."木曾ヒノキについて".https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/policy/business/sigoto/kiso-hinoki/hinoki01_01.html, (参照2022-2-10)
林野庁."漆のはなし". <https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/urusi/>, (参照2022-2-10)

写真提供 林野庁中部森林管理局木曾森林管理署



檜

名古屋仏壇の作業工程

名古屋仏壇を作る専門職人たちは「八職（木地師、荘厳師、彫刻師、塗り師、外金物師、内金物師、蒔絵師、箔置き師）」と呼ばれる8つの主な製造部門に分かれて分業で製造に携わります。

今回は、◆木地師 ◆塗り師 ◆外金物師 ◆内金物師 ◆箔置き師 の役割をご紹介します。

◆木地師

木材をよく乾燥させて、仏壇の本体を作ります。本体は「ほぞ組み」で作られます。



▲木は檜を使用

◆塗り師

下地を施したあと、様々な漆を用い木目出し塗りなどを行います。



▼木目出し塗り



◆外金物師

お仏壇の外側を飾る金具を、多数の型を用いて模様を彫り作ります。



復元した名古屋城本丸御殿においても、桔梗の花のすかしや、のし型の釘かかしを製作し、職人の技を発揮しました。



◀桔梗の花のすかし

◆内金物師

お仏壇の内側を飾る金具を多数の型を用いて模様を彫り作ります。



◆箔置き師

金箔を竹箸で正確に仏壇の各部分に置きます。



職人の目

～ 職人からみなさんへ～



仏壇は、もとは宮大工や寺大工の職人が作っており、その高い技術と知恵が現在に引き継がれています。この高い技術を皆さんに知ってほしいです。



名古屋仏壇商工協同組合の 伝統工芸士のみなさん

名古屋仏壇は、実際には、「八職」に天井師、呂色師、仕組師を加えた「十一職」の職人たちが制作に関わっています。



NAGOYA
DENTO
KOGEI

名古屋友禅(手描友禅)

名古屋友禅(手描友禅)とは?

名古屋における手描友禅は、享保年間(1730~1739)、第七代尾張藩主徳川宗春の遊芸華やかな時代に京都から絵師・友禅師などが往来して伝えられました。その後、当地に質素儉約の気風が定着し、花鳥風月を基本にした、色使いも単彩濃淡調の渋い友禅染となり、今日に受け継がれています。



手描友禅とは?

ひとつひとつ筆で絵を描くように染め上げます。



名古屋友禅の特徴

京友禅が華やか、加賀友禅が繊細であるのに対し、名古屋友禅は渋さを魅力としており、色数を厳選し、その色の濃淡で柄を表現していく「単彩濃淡調」で描かれます。

樹光染め

草や葉をそのまま生地に置き、自然の草木そのものの形を写し取る堀部満久氏独自の染色技法。色の濃淡によって立体的で美しく、また自然の趣がそのまま伝わってくるような「生きた柄」です



一例

長く使うための工夫

- 着物は一つの反物から作る
着物は使わなかった部分も縫い込んであるので、糸をほどいて反物にし、再利用ができます(仕立て直し)
- 染め直し
色を染め直し、繰り返し使えます。

染め直し

染め直して、違う雰囲気の着物を着ることもできます。



直し前 ➡ 直し後

着物は
究極のエコ



伝統工芸と自然の恵み

青花液で下絵を描く

青花液は、水に溶けやすいため、水洗により簡単に下絵を消すことができます。



青花

手描友禅の作業工程

1 下絵

青花液で下絵を描きます。



青花液を染み込ませた和紙



2 糸目糊置

下絵の線に沿って糊を置いて、色の混じりを防ぎます。



3 伏糊置

色挿した部分に地色染の染料が染み込まないように、糊ですべて埋めていきます。



4 引き染め・蒸し

刷毛を使って地色染めをします。そして、染料を生地に定着発色させるために、蒸枠にかけ、蒸箱に入れて蒸します。



5 色挿し・蒸し

糸目糊で仕切られた文様各部へ筆や刷毛を用いて絵を描くように色を塗りぼかしていきます。色挿しが終わったら、もう一度蒸し、染料を定着させます。



6 洗い・仕上げ

水洗いして余分な染料・糊を取り除きます。最後に生地の部分にさらに色挿し工程ではできない模様の細部の加工や金箔の貼り付けなど仕上げ加工をします。

職人の目

～職人からみなさんへ～

手描友禅教室やイベントでのワークショップなどで染め体験を行っていますので、職人の技にふれてみませんか？
また、ぜひ着物文化を見直してほしいです！

手描友禅の作業工程を見てもらい、多くの方に魅力を知っていただきたいです！（「作業工程」の2次元コードから動画をご覧ください。）



NAGOYA
DENTO
KOGEI

名古屋友禅(型友禅)

名古屋友禅(型友禅)とは？

型友禅は、友禅模様を型彫りした型紙を下絵の代わりに用い、使う色ごとに型紙を用意して絵柄を付けていく友禅染です。名古屋における型友禅は、その起源を染物屋の旗や幟^{のぼり}などにあると言われ、江戸時代末期には、型染めの産地基盤を確立しました。



型友禅とは？

下絵の代わりに型紙を用い、使う色ごとに型紙を変えて絵柄を付けます。多いもので100枚以上の型紙を使うこともあります。



名古屋友禅の特徴

花鳥風月を基本にした、色数を厳選し、その濃淡で柄を描く単彩濃淡調の渋い友禅染です。



伝統工芸と自然の恵み

伊勢型紙を用いて細やかな模様を染め上げ

伊勢型紙を下絵の代わりに用い、使う色ごとに型紙を用意して絵柄を付けていきます。型紙は30、40回は繰り返し使用できます。

＜伊勢型紙＞ 美濃和紙を柿渋で張り合わせた型地紙に、彫刻師が彫刻刀で文様や図柄を彫り抜いたものです。

伊勢型紙も伝統的工芸品の指定を受けています。

＜参考＞ 伊勢形紙協同組合、"伊勢型紙ができるまで"。https://isekatagami.or.jp/process/、(参照2022-2-10)

＜柿 渋＞ 渋柿の未熟な果実から搾り取った汁液を発酵させ、それを熟成させたもので、和紙を柿渋で張り合わせることで、非常に丈夫になり、彫刻刀で細かい文様を彫ることができるようになります。

＜参考＞ 四季の美、"伊勢型紙に使われる柿渋の様々な効果！健康や環境にも優しい天然素材" https://shikinobi.com/kakishibu、(参照2022-2-10)



型紙



渋柿

※現在では、石油系の型紙も使いますが、和紙ならではの良さがあります。

型友禅の作業工程

1 地張り

友禅板の上にもち米の糊を引き、生地を貼りつけます。



友禅板(モミの木)

2 型置き

地張りした生地の上に型紙を置き、もち米と米ぬかと染料を混ぜた色糊を刷毛など用いて塗り付けていきます。

型紙は、含まれる水分の量によって伸び縮みます。湿った状態を保たないと図柄が合わなくなってしまうので、型紙の状態に気を配らなければなりません。



色々な色糊と刷毛

刷毛は
鹿の毛



型置きの様子

3 糊伏せ・地染め

染めた部分に糊を置き、生地全体の地色の染料が染み込まないようにし、地色を染めます。

4 蒸し・水洗・仕上げ

生地を蒸して染料を定着させ、水洗いして余分な染料や糊を取り除き仕上げます。



水洗

職人の目

～職人からみなさんへ～



型紙や刷毛などの道具を欠かせませんが、これらの道具をつくる職人も徐々に少なくなっています。

こうした職人を守るためにも、まずは皆様にもっと名古屋型友禅を知ってもらいたいです。



名古屋型友禅の技法を活かした時代に合った型友禅の技法の活用方法を模索し続けています。ぜひ身近なところから取り入れてみてください。



エコバッグ



ハガキ

名古屋黒紋付染



名古屋黒紋付染とは？

名古屋の黒紋付染めは、慶長15年(1610年)、尾張藩士小坂井家が、藩内の旗、幟などの製造にあたったことが始まりといわれています。その後、現在につながる紋型紙板締め^{のぼり}の技法が生み出されました。

<引用> 愛知県."名古屋黒紋付染".<https://www.pref.aichi.jp/sangyoshinko/densan/205.html>, (参照2022-2-10)

黒染めの工程で紋型紙・紋当金網^{もんあてかなあみ}を用いる名古屋黒紋付染は、黒の美しさ、紋の周りの黒が色褪せないと高く評価されています。



黒紋付染とは？

紋付とは、家紋の付いた黒色に染められた着物や羽織のことで、主に礼服として着用されます。明治時代になり、「五つ紋の黒紋付羽織袴」が礼装に定められました。



名古屋黒紋付染の特徴

名古屋の黒紋付染は、「紋当金網^{もんあてかなあみ}」で生地を裏表からはさみ、型紙の上から糸で締め付け防染し、白く残した部分に紋章を描きます。(他では、糊を張り付けて防染する)



● 紋の数

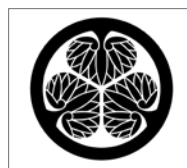
紋の数は5つが正式と言われ、背中はお先祖、両腕はそれぞれ父親、母親、両袖には兄弟、親戚縁者の意味があると言われています。

<参考> 山勝染工株式会社."名古屋 黒紋付染とは".
<https://yamakatu.co.jp/kuromontsuki/>
kuromontsuki-about, (参照2022-2-10)

● 色々な紋章

紋章は、植物のモチーフ、動物のモチーフ、矢などの器物のモチーフなど色々な図柄があります。

(例)



双葉葵と葵の家紋



伝統工芸と自然の恵み

水を含んだ和紙で美しい紋を描く

紋型紙は和紙を何枚も貼り合わせた紙を紋章の輪郭を突き彫りして作ります。

和紙の型紙は染液に付けた時に膨張し、さらに生地を圧迫して、染料の侵入を防ぐ効果があり、黒と白の美しさを出すことにつながります。



紋型紙



こうぞ
(こうぞは和紙の原料の1つです)

名古屋黒紋付染の作業工程

1 つもり

生地を水洗いや下湯のしなどをし、整えたあと、紋の位置を決めます。

2 紋糊はりつけ・紋当金網付

紋の形に切った紋型紙を糊で生地に貼り付けます。そして、紋型紙の上から画面に紋当金網を縫い付けます。

3 紅下染・藍下染

染料黒だけでは深みのある黒色を得難く、古来より紅下染や藍下染などが行われています。染め上げ後取り出して水洗します。

4 浸染黒染

下染めを行った生地に本黒染めを施します。

5 紋糊落とし・紋洗い

一昼夜水に浸けたあと、紋当金網と紋型紙を外し、よく洗い紋の部分に残っている糊を落とします。

6 紋上絵・仕上げ

家紋の形に白く染め抜かれたところに家紋の細部を描き入れ仕上げます。



紅下染からの浸染黒染



ゆっくりと時間をかけて染めるのが特徴



職人の目

～職人からみなさんへ～

黒紋付染めの着物は冠婚葬祭などでしか現代はあまり着るころがなくなっていました。着物は究極のエコです。もっともっと着物を着てほしいです。



最近では、ストールなどを作って、白と黒の織り成すデザインで、普段の生活にも取り入れやすいものも作っています。

わ ろう そく 和 蠟 燭



和蠟燭とは？

仏教の伝来とともに中国からその製法が伝えられたといわれています。名古屋には、17世紀後半に会津地方から伝わったとされています。和蠟燭は、^{はぜ}燭の実を搾った木蠟^{もくろう}とい草の芯、和紙を原料としています。



和蠟燭の特徴

- 原料はすべて植物
- 洋蠟燭と比べ油煙^{ゆえん}が極めて少ない
(汚れが付着しても植物性なのでとれやすい)
- 風がふいても炎が消えにくい
- 蠟燭の断面は木の年輪のように
(何度も繰り返し蠟を重ね塗りするため)

職人よる手作り

木蠟^{もくろう}が非常に粘りのある特質のため、型に流し込むような製法は不可能です。一本一本、手で練り付けていく根気のいる製法、いわゆる手作りでしかできないのです。



伝統工芸と自然の恵み

すべて植物の恵み

和蠟燭は、^{はぜ}燭の実を搾った木蠟^{もくろう}とい草の芯、和紙を原料としています。

木蠟は油煙^{ゆえん}が極めて少なく、また、少量の油煙が付着しても、石油性や動物性のものに比べ清掃しやすい。



^{はぜ}
燭の実

木蠟のもと。

国産のものを使用しています。

木蠟は、お相撲さんの髷^{まげ}を結う鬢付け油^{びんづ}でも使われています。他の油ではバラバラになってしまうのです。

<引用> 日本特用林産振興会。“木蠟(もくろう)-文化財を維持する特用林産物” https://nittokusin.jp/bunkazai_iji/mokurou/, (参照2022-2-10)

和蠟燭の作業工程

1 芯作り(芯巻き)

竹の棒に和紙を巻いてい草の中身を螺旋状に巻き付けます。

2 芯挿し

完成した芯を竹や木の串に挿し込みます。

3 つけ

芯に蠟をつけ蠟燭の基本を作ります。

4 下掛けぬり・上掛けぬり

芯付けしたものに、その周りに手の平で蠟をかけます。
1回1ミリ位の厚さのものを乾いたらかけ、また乾かせ、
またかけるを繰り返します。
表面に^{かな}匏をあて、成型をした後、化粧蠟で表面を整えます。

5 仕上げ

最後に、蠟燭の頭部を切り芯を出し、下部をきれいに切りそろえて、仕上げます。

木の串に
差し込んで
いる様子

芯挿し



下掛けぬり



この部分を出す



職人の目

～職人からみなさんへ～



和蠟燭はすべて天然の材料のみで
全て出来ている環境にやさしい
工芸品です。日本の文化とともに
育まれた天然由来の灯りを日々
の生活に取り入れてぜひ癒され
てください。





ご協力いただいた関係団体

名 称	関係団体名
尾張七宝	名古屋七宝協同組合
有松・鳴海絞	愛知県絞工業組合
名古屋節句飾	中部人形節句品工業協同組合
木桶	名古屋桶工業組合
名古屋桐箆笥	名古屋桐箆笥工業協同組合
名古屋扇子	名古屋扇子製造組合
名古屋提灯	名古屋提灯製造組合
尾張仏具	尾張仏具技術保存会
名古屋仏壇	名古屋仏壇商工協同組合
名古屋友禅(手描友禅)	名古屋友禅黒紋付協同組合連合会
名古屋友禅(型友禅)	
名古屋黒紋付染	
和蠟燭	名古屋和蠟燭出品協会

名古屋の伝統産業と自然の恵み

<https://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000149236.html>

名古屋市環境局環境企画課

TEL 052-972-2684

FAX 052-972-4134

